

菜の花コミュニティプラン2020に係る 令和2年度（計画期間3年目）最終評価結果について

令和3年5月17日
千葉県社会福祉協議会

平成30年度からスタートした、本会の行動計画である「菜の花コミュニティプラン2020」の3年目（最終年度）である令和2年度の実施状況を検証するため、次のとおり最終評価を実施した。

1 評価の方法

令和2年度に取組みが計画されていた63項目について評価を実施した。

評価方法は、各担当班長が正・副部局長と協議のうえ1次評価を行い、常務理事・事務局長・事務局次長、総務副部長によるヒアリング（2次評価）を行った後、政策調整委員会に諮り最終評価結果として決定する。これを理事会・評議員会に報告する。

なお、中間評価として9月30日時点での進捗状況について評価を実施している。

2 評価基準日

令和3年3月31日

3 評価表の作成方法

（1）実績

①年次計画の達成状況

年次計画の項目ごとに評点及びその評価の理由を記載した。

なお、「評点」は中間評価並びに最終評価とも下表の評価基準をもとに判定した。

評点	基準
A	計画どおり、または計画を上回る実績をあげている
B	計画の50～100%未満の実施、または実績
C	計画の1～50%未満の実施、または実績
D	未実施

②目標となる指標の状況

設定項目ごとに令和2年度の目標値と年度末時点での実績を記載した。

（2）課題・問題点

令和2年度における事業実施の中で考えられる課題・問題点を記載した。

（3）次年度に向けた計画等

評価した事業の令和3年度における展開及び改善策を記載した。

4 評価結果

中間評価			最終評価		
区分	評価	割合	区分	評価	割合
A	7	11.1%	A	20	31.8%
B	25	39.7%	B	28	44.4%
C	22	34.9%	C	10	15.9%
D	9	14.3%	D	5	7.9%
計	63	100.0%	計	63	100.0%

<総括>

○事業の進捗・達成状況については、A評価（計画どおり、または計画を上回る実績）が31.8%であり、B評価（計画の50～100%未満の実施、または実績）の44.4%を加えると76.2%となるが、昨年度の93.6%と比較すると下がっている。新型コロナウイルス感染症の影響等により、事業の進捗も影響を受けた形となった。

○主な成果

- ・生活福祉資金貸付事業については、新型コロナウイルスの影響を受け、休業等による収入の減少や失業等により生活に困窮し、緊急かつ一時的な生計維持のための貸付を必要とする世帯に対して、令和2年3月から生活福祉資金「緊急小口資金」及び「総合支援資金」の特例貸付を開始し、令和3年3月末時点で約76,000件の貸付を行ったこと。
- ・福祉人材センターでは及びちば保育士・保育所支援センターにおけるマッチング事業等を通じて新たに168名の就業につながった。また、関連して介護福祉士修学資金等貸付事業は127件増、保育士修学資金等貸付事業は67件増となったこと。
- ・新型コロナウイルスの影響によって新たにWEBを活用した開催方法等を導入し、この効果として一部の研修会やセミナーの参加者が増加したこと。

等が挙げられる。

○主な課題

- ・特例貸付の申請受付期間が当初の予定から3度延長となり令和3年6月末までとなっているが、貸付件数がこれまでにない膨大な件数となっていることから、今後始まる償還業務に対して、貸付規模に見合った体制整備を進める必要があり、そのための財源確保も課題となること。
- ・新型コロナウイルスの影響により各種会議や研修会が中止・延期等となった。特に、社会福祉研修センターについては、県からの委託研修は実施できたものの、独自研修として計画していた福祉施設等の職員向けの研修会が一部しか開催ができず、これに伴い法人としても自主財源の大幅な減収となったこと。
- ・研修会や会議等におけるWEBの導入について、引き続き効果的な活用方法を検討し、拡充を進める必要があること。

等が挙げられる。